

定期作況報告

(第4号 平成22年8月20日現在)
地方独立行政法人北海道立総合研究機構
農業研究本部 上川農業試験場

1. 気象概況

7月下旬：最高気温は平年より0.2℃高く、最低気温は平年より3.1℃高かった。降水量は平年より7.2mm多く、平年対比111%であった。降水日数は平年より1日多かった。日照時間は平年より21.0時間少なく、平年対比58%であった。夏日(最高気温25℃以上)は9日、真夏日(最高気温30℃以上)は無かった。

8月上旬：最高気温は平年より1.3℃高く、最低気温も平年より1.8℃高かった。降水量は平年より8.0mm多く、平年対比119%であった。降水日数は平年より1日多かった。日照時間は平年より16.2時間少なく、平年対比67%であった。夏日は10日、うち真夏日は2日あった。

8月中旬：最高気温は平年より2.2℃高く、最低気温も平年より1.3℃高かった。降水量は平年より2.7mm少なく、平年対比94%であった。降水日数は平年より1日多かった。日照時間は平年より15.8時間多く、平年対比130%であった。夏日は10日、うち真夏日は3日であった。

7月下旬から8月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	7月下旬			8月上旬			8月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	26.5	26.3	0.2	28.4	27.1	1.3	28.6	26.4	2.2	27.8	26.6	1.2
最低気温(℃)	19.4	16.3	3.1	19.6	17.8	1.8	17.7	16.4	1.3	18.9	16.8	2.1
平均気温(℃)	22.3	20.8	1.5	23.9	22.1	1.8	22.7	21.0	1.7	23.0	21.3	1.7
降水量(mm)	73.5	66.3	7.2	50.5	42.5	8.0	41.0	43.7	2.7	165.0	152.5	12.5
降水日数(日)	6	5	1	5	4	1	4	3	1	15	12	3
日照時間(hr)	29.3	50.3	21.0	33.2	49.4	16.2	68.2	52.4	15.8	130.7	152.1	21.4

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10カ年の平均値。

3) 印は平年に比べて減を示す。

2. 作 況

1) 水 稲 : 平年並

事由：出穂期は平年に比べ「ほしのゆめ」「きらら397」が6日早く、「ななつぼし」は7日早かった。穂揃い日数は平年に比べ「ほしのゆめ」が3日、「きらら397」「ななつぼし」は1日長かった。最終止葉葉数は平年に比べ「ほしのゆめ」が1枚、「ななつぼし」は0.9枚、「きらら397」は0.6枚少なかった。

8月20日現在、稈長は平年に比べ「ほしのゆめ」が1.3cm、「ななつぼし」が0.4cm短く「きらら397」は2.3cm長かった。穂長は「ほしのゆめ」が平年並みであったが「きらら397」は0.6cm、「ななつぼし」も0.9cm平年より短かった。m²当たり穂数は平年対比「ほしのゆめ」が89%「きらら397」が95%で少なく、「ななつぼし」は99%で平年並であった。

以上、生育進度は進んでいるものの、m²当たり穂数が平年並から10%程度少ない。したがって、目下の作況は「平年並」である。

表2 生育期節

品種名 苗	出穂期(月・日)			穂揃い日数(日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ほしのゆめ 成苗	7.16	7.22	6	9	6	3
きらら397 成苗	7.18	7.24	6	7	6	1
ななつぼし 成苗	7.16	7.23	7	8	7	1

注1) 平年値は平成15～21年7カ年のうち平成20年(最豊年)、平成21年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。

2) 印は平年に比べて「早」を示す。

3) 出穂期：有効茎数の40～50%が出穂した日。

表3 8月20日現在の本田生育

品種名 苗	最終止葉葉数(枚)		
	本年	平年	比較
ほしのゆめ 成苗	9.1	10.1	1.0
きらら397 成苗	10.5	11.1	0.6
ななつぼし 成苗	9.6	10.5	0.9

品種名 苗	稈 長(cm)			穂 長(cm)			穂 数(本/m ²)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	対比(%)
ほしのゆめ 成苗	61.8	63.1	1.3	16.0	15.9	0.1	673	759	86	89%
きらら397 成苗	62.3	60.0	2.3	16.3	16.9	0.6	661	693	32	95%
ななつぼし 成苗	65.8	66.2	0.4	16.1	17.0	0.9	650	658	8	99%

注1) 平年値は平成15～21年7カ年のうち平成20年(最豊年)、平成21年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。

2) 印は平年に比べて「減」を示す。

2) 秋まき小麦： 不良

事由： 成熟期は平年より4日早かった。穂数は平年を下回り、千粒重は平年よりやや軽かった。この結果、子実重は平年比71%と低収となった。容積重は平年並であった。

したがって、目下の作況は不良である。

表4 秋まき小麦の収量

品 種 名	成 熟 期 (月日)			穂 数 (本/m ²)			穂 長 (cm)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ホクシン	7.14	7.18	4	549	651	102	8.1	8.6	0.5

品 種 名	子 実 重 (kg/10a)			子実重平年比 (%)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ホクシン	462	649	187	71	100	29

品 種 名	千 粒 重 (g)			リットル重 (g)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ホクシン	36.5	37.0	0.5	782	784	2

注1) 平年値は、前7か年中、平成20年、21年(収穫年度)を除く5か年の平均値

2) は平年より早、 は平年より減を示す。

3) 春まき小麦： 平年並

事由： 7月第5半旬は、前期に引き続き、高温に経過し、成熟期は平年より2日早かった。稈長、穂長はほぼ平年並だが、穂数は平年より多かった(前報)。7月上旬以降の度重なる降雨により全面的に倒伏したため、品質の低下が懸念される。

したがって、目下の作況は平年並である。

表5 8月20日の春まき小麦の生育

品 種 名	成 熟 期 (月日)		
	本年	平年	比較
春よ恋	7.26	7.28	2

注1) 平年値は、前7か年中、平成15年、18年を除く5か年の平均値。

2) は平年より早を示す。

4) 大豆 : 平年並

事由: 主茎長は前報から伸びておらず、主茎節数は平年並だが、分枝数は平年より多い。着莢数はほぼ平年並である。

したがって、目下の作況は平年並である。

表6 8月20日の大豆の生育

品種名	主茎長 (cm)			主茎節数 (節)			分枝数 (本/株)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ユキホマレ	66.3	63.5	2.8	10.6	10.6	0.0	9.4	6.6	2.8

品種名	着莢数 (個/株)		
	本年	平年	比較
ユキホマレ	84	86	2

注1) 平年値は前7か年中、平成14年、18年を除く5か年の平均値。

5) 小豆 : やや良

事由: 開花期は平年より3日早かった(前報)。前期に引き続き、高温、多雨、少照に経過し、徒長した。主茎長は平年を大きく上回り、本葉数、分枝数は平年をやや上回っている。予備的に行った莢数の調査では、成熟期の平年並からやや上回っているものの、高温による小粒化や過繁茂、倒伏による充実不良等が懸念される。

したがって、目下の作況はやや良である。

表7 8月20日の小豆の生育

品種名	開花期 (月日)		
	本年	平年	比較
イリモシウス'	7.19	7.22	3
しゅまり	7.19	7.22	3

品種名	主茎長 (cm)			本葉数 (枚)			分枝数 (本/株)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
イリモシウス'	85.6	58.0	27.6	14.0	12.3	1.7	5.8	4.6	1.2
しゅまり	100.0	65.0	35.0	13.3	11.9	1.4	6.7	5.4	1.3

注1) 平年値は、前7か年中、平成15年、平成16年を除く5か年の平均値。

2) は平年より早を示す。

6) ばれいしょ : やや不良

事由：株当たり上いも数が平年より2個以上少なく、上いも収量は平年を下回っている。上いも平均一個重は平年より重い、高温、過湿状態で塊茎が急激に肥大したため、塊茎には二次生長、変形や皮目肥大が散見され、でん粉価も平年より1.5ポイント低い。

したがって、目下の作況はやや不良である。

表8 8月20日のばれいしょの生育

品種名	上いも数(個/株)			上いも平均一個重(g)			上いも収量(kg/10a)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男爵いも	9.4	11.5	2.1	120	106	14	4951	5345	394

品種名	でん粉価(%)		
	本年	平年	比較
男爵いも	13.4	14.9	1.5

注1) 平年値は、前7か年中、平成16年、19年を除く5か年の平均値。

2) 各数値は、試し掘りの値である。